

(別冊 資料)

伊根町
より豊かな学びが実現できる
学校施設審議会答申

令和7年7月

資料

より豊かな学びが実現で
きる学校施設審議会
～課題提示・事例紹介～
(一部抜粋)

より豊かな学びが実現できる
学校施設審議会
～課題提示・事例紹介～

2024年10月

福知山公立大学 地域経営学部
准教授 福畠 真治

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力



- ・「このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようその資質・能力を育成することが求められている（中教審 2021a, p.3）」
- ・「文章の意味を正確に理解する読解力、教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力などが挙げられた。また、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越えものごとを成し遂げる力、公共の精神の育成等を図るとともに、子供の頃から、各教育段階に応じて体力の向上、健康の確保を図ることなど（同）」

連携・分担による学校マネジメント

- ・「学校内においては、教師とは異なる知見を持つ外部人材や、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフなど、多様な人材が指導に携わることができる学校を実現することが求められる。（中教審 2021a, p.25）」
- ・「コミュニティ・スクールの設置が努力義務であることを踏まえ、また、地域学校協働本部の整備により、保護者や地域住民等の学校運営への参加・参画を得ながら学校運営を行う体制の構築（同）」
- ・「学校が家庭や地域社会と連携することで、社会とつながる協働的な学びを実現するとともに、働き方改革の観点からも、保護者やPTA，地域住民，児童相談所等の福祉機関，NPO，地域スポーツクラブ，図書館・公民館等の社会教育施設など、地域の関係機関と学校との連携・協働を進め、学校・家庭・地域の役割分担を文部科学省が前面に立って強力的に推進することで、多様性のあるチームによる学校とし、「自立」した学校を実現することが必要（同，p.26）」

多様な学習活動にフレキシブルに対応できる

■八千代市立萱田南小学校（千葉県八千代市）



▲普通教室は廊下を介してオープンスペースとつながっている。



▲普通教室。可動式の家具で廊下との間を仕切っている。



▲オープンスペース。

■糸魚川市立糸魚川小学校 ひすいの里総合学校（新潟県糸魚川市）



▲普通教室はロッカースペースをはさんでオープスタイル。



▲教室前の広々としたオープンスペース。学年ごとの集会も可能。

■近江八幡市立桐原小学校（滋賀県近江八幡市）



▲広々とした廊下は、場面によって扉を開閉して柔軟に利用。

へき地教育の三特性

へき地性



へき地こそ

体験活動の宝庫

小規模性



小規模こそ

個性を生かす大地

複式形態



複式こそ

自ら問題解決する力を
育むゆりかご

へき地教育の特性を積極的に生かす教育の推進



一人一人のよさを生かす 個に応じた指導の充実

- ・少人数の利点を生かし、実態把握と、きめ細やかな指導を大切にする。
- ・個々が感じ、考え、試みたことを指導に生かす。

学校周辺の豊かな自然環境を 生かした教材や体験活動の充実

- ・恵まれた自然環境を教材化する等、体験活動に生かす。
- ・地域や自然を愛する心情やたくましく生きる心、生命を尊ぶ心、自然環境を大切にする心等、豊かな心の育成を図る。

自学自習の経験の積み重ね

- ・既習事項や生活体験を生かしながら、思考・判断・表現し、課題を解決していくような学習を保障する。

地域住民との連携、 協働による教育活動の展開

- ・地域と学校の間を密接にする。

全教職員の一体となった 指導体制づくり

- ・小規模な教職員組織を生かし、共通理解を十分に生かす。
- ・全教職員が機能する学校運営を目指す。（教職員個々の役割を明確にし、全教職員が有機的に機能することが大切である）

他の学校との交流

- ・学習指導や生徒指導の連絡会を設ける。
- ・近隣の小学校や校区の中学校との学校行事、自然体験活動、クラブ活動や部活動、ボランティア活動等により、教育課題の解決に迫る。
- ・コンピュータ、情報通信ネットワーク等を活用する。
- ・特別支援学校等との交流を図る。

小規模性や地域性を活かした環境

○へき地・小規模校の特性を活かした教育活動を意識的に企画しているか。

小規模性・地域性を活かした指導を創れる柔軟な環境がある。

- 1) 教師と子どもの信頼関係を形成しやすい。
- 2) 異年齢・異世代の関係を作りやすい。
- 3) 個々の子どもの到達点にあった学習指導・生活指導をしやすい。
- 4) 子ども同士の協同活動・グループワークをしやすい。
- 5) 子どもの発言機会・発表機会を増やしやすい。
- 6) 地域の特性を生かしたカリキュラムを実施しやすい。
- 7) 自然体験学習・農業体験学習を行いやすい。
- 8) 全員が役割を持った運営を行いやすい。
- 9) 地域に協力する公共活動・ボランティア活動を行いやすい。
- 10) 教師同士も意思疎通を図りやすい。

→これらをプラス面として意識的に追究したカリキュラムと指導の特色と環境を創りやすい

現代の子どもの生活環境の特性とへき地の生活環境の可能性 福知山公立大学

一般的な現代の子どもの生活環境の特性	相対的に見たへき地の生活環境の可能性
子ども同士のふれあいの機会の減少	子ども同士のふれあいの存在
子どもの生活がバーチャル化	自然体験等の五感を使った遊びが可能
同年齢集団による仲間関係	地域の異年齢集団の残存
社会体験・ボランティア体験の喪失	日常的な地区の共同作業・奉仕活動が存在
家業手伝いの希少さ	家業手伝いの残存
高齢者との交流の欠如	生活を通じた高齢者との日常的なふれあい
親同士の間関係の孤立化	親同士の間関係の残存
少子化・核家族化	複数兄弟姉妹・多世代家族
過保護・過干渉	適度な保護と干渉
塾等の過度な受験競争	ゆとりある教育
言語のみによる教育	体験をともなった教育
系統学習・一斉授業の展開	統合型カリキュラムの残存
学校行事の削減	豊富な学校行事

(川前・玉井・二宮編著『豊かな心を育む へき地・小規模校教育－少子化時代の学校の可能性』学事出版社より)

へき地・複式教育の長所と短所

外部環境（地域）	内部環境（学校）
Opportunity（機会）＋ 【学習面・生活面】 ◎豊かな自然環境を生かした教材や体験活動など特色ある教育活動（自然体験，伝統文化活動，産業教育） 【学校経営・運営】 ◎P T A・地域住民が協力的である ◎地域住民との連携，協力した地域に根ざした教育活動（合同運動会，祭典）	Strenght（強み）＋ 【学習面・生活面】 ◎個に応じたきめ細かな指導 ◎自学自習の経験を生かした自ら学び考える力の育成 ◎学年を越えた学び合い ◎柔軟な指導方法や指導形態 【学校経営・運営】 ◎共通理解と協力的な指導体制 ◎少ない学級事務（時間的なゆとり）
Threat（脅威）－ 【学習面・生活面】 ●スクールバス通学による運動不足及び少ない放課後の遊び時間 ●学校間が離れていて移動に時間と費用がかかる →集合学習が難しい 【学校経営・運営】 ●地域の学校へ対する依存度が大きい 「学校あっての地域，地域あっての学校」 →地域と協働する教職員の育成 ●遠距離や学校数減少のための校外研修が難しい	Weakness（弱み）－ 【学習面・生活面】 ●集団による話し合い（多様な考え，深まる思考，言語能力） ●大きい能力差（異学年・性別） ●大きな集団での社会的な経験 ●固定化した人間関係と馴れ合い 【学校経営・運営】 ●相互研修の機会（校内研修の限界） ●教頭，養護教諭，事務職員の未配置 ●免許外教科担任（一般教諭への負担増）

資料参照

参考・引用文献

- 青森県教育委員会（2022）「へき地・複式教育ハンドブック（事例編）」.
- 学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議（2024）「ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集」.
- 玉井 康之（2022）「これからのへき地・複式・小規模校教育（上）」.
- 中央教育審議会（2021a）「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～答申」.
- 中央教育審議会（2021b）「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～答申関連資料」.
- 富山市教育委員会（2023）「（別紙）富山市立小・中学校再編計画 事例調査報告」.
- 松田 孝一（2015）「へき地教育の現状と課題 -北海道宗谷地方のへき地・複式教育を事例として-」『明治大学教育会紀要』Vol.7, pp.71-80.

資料

ウェルビーイング向上の
ための学校施設づくりの
アイデア集（一部抜粋）



ウェルビーイング向上のための 学校施設づくりのアイデア集



令和6年9月

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議

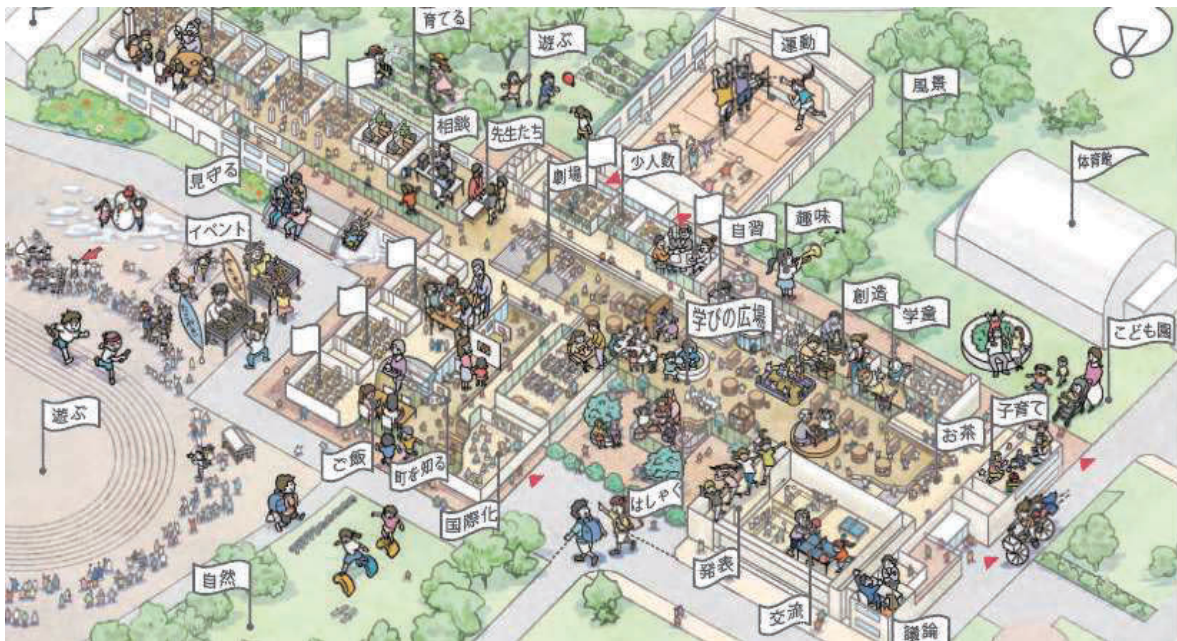
第2章 ウェルビーイングに向けた学校施設づくりのアイデア例

コミュニティデザインの手法を活用し、住民参加型で取り組む

北海道中頓別町 人生100年の学びの場づくり | 中頓別町では、「3歳から15歳が学べる幼小中一貫の学校にとどまらない、人生100年時代において子どもから大人まで学びつづけることができる学びの拠点」を目指し、構想・計画の段階から住民参加型で検討を進めた。

地域でどんな教育をしたいかを、顔見知りの町民と議論

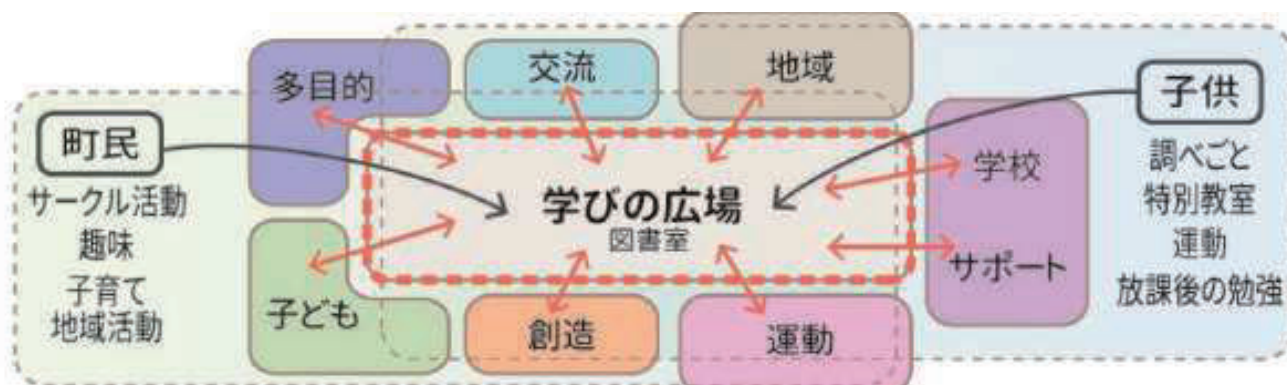
- ・中頓別町は、人口はコンパクト（約1,550人）で町民は顔見知りの間柄である一方、最寄りの駅や総合病院に行くためには車で町外に出る必要がある。町内に小中学校は各1校で、各学年1学級。
- ・中学校校舎の老朽化が課題となる中、単に建物の検討に終始するのではなく、町として幼児期からの自然と英語を柱にした教育に取り組んできた流れを受け、地域でどんな教育を実現したいかという根っこの部分から、町の学校（小学校、中学校）及び公共施設（町民センター）の機能の在り方についての協議を進めることにした。
- ・町では、基本計画策定に向けて、コミュニティデザインの専門家を迎え、ヒアリング調査・勉強会・ワークショップなど、各プロセスにおいて、様々な住民参加の機会をつくった。



新しい学校のイメージ図

大人が学ぶことを本気で楽しんでいる環境

- ・ 小学校と中学校を統合した義務教育学校の整備に伴い、生涯学習センターの中に学校を組み込み、子どもたちの活動が地域社会に展開するような新しい時代の学びの場の計画づくりを目的とした。地域の大人が学ぶことを本気で楽しんでいる環境の中に子どもたちをおき、ともに学び続けられる場づくりを進めることを意図している。
- ・ 四方から子どもも大人も集まる場所が、自分の好きなことが見つかり、誰かと何かをやってみる場になるよう、「学びの広場」と称して、本との対話ができる小空間や、人との対話や交流ができるスペースを配置する計画としている。
- ・ 特別教室を「学びの広場」に面するように一体的に配置し、児童生徒と町民が日常的に共有する空間とする予定。



新しい学校の構成図



施設の設計についても地域住民と対話をしながら進めている

コミュニティデザインとは

デザインの力を使って、地域の課題を地域に暮らす人たちが解決するよう支援すること。人がつながる仕組み作りや担い手育成などの「見えないデザイン」から、その中で生じたプロセスや成果を見える化する「見えるデザイン」まで多岐に渡る。

コミュニティデザインの手法を活用し、住民参加型で取り組む

北海道中頓別町 人生100年の学びの場づくり | 中頓別町では、「3歳から15歳が学べる幼小中一貫の学校にとどまらない、人生100年時代において子どもから大人まで学びつづけることができる学びの拠点」を目指し、構想・計画の段階から住民参加型で検討を進めた。

実現プロセス：

様々な形のワークショップを実施

- ・町では、コミュニティデザインの手法を活用して町民と協働して事業を推進するため、基本計画～基本設計を検討する段階で、様々な形でのワークショップを実施した。
- ・学校が完成した時に、町民が違和感無くその場で活動ができるように、設計や工事をやっている間もワークショップを続けていく。子どもも大人も含めて、様々なチーム（映画チーム、手芸チーム、食チーム、カフェチーム、進路・町営塾チーム）を作って、開校後の活動についても仕組みを作り上げていっている。
- ・また、地域の大人たちのチーム活動と子どもたちの活動をつなぎ、放課後の選択肢を豊かにすることも目指している。



理想の放課後のイラストと地域のチーム活動の様子

文部科学省：委託事業「新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業」について
https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/seibi/1372577_00001.htm



町民

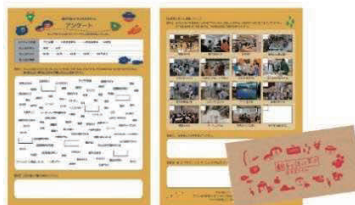
教職員

町民及び教職員へのヒアリング調査



勉強会「親子で語って学ぶ生き方ドリル」

ワークショップに先立ち、地域の子もたちや教育の現状を共有するとともに、日本の教育の潮流や未来の変化を学ぶ勉強会を開催した。プロジェクトの機運を醸成するとともに、みんなで学びながら、これからを考える準備をした。



保護者アンケート調査

コロナ禍であったため保護者対象の説明とアンケート調査を実施した。アンケートをみながら親子でおしゃべりできるツールとなるよう工夫した。

教職員
WS

町民ワークショップ

「あったらいいな展」と題し、新しい学校づくりに関する設営やそれまでのヒアリング調査やアンケート調査を展示した。来場者とともに展示をみながらアイデアを話し合ったり書き加えるなど、大人と子どもが対話できる場とした。



中学生ワークショップ

中学生を対象に総合学習の時間の中で、オンラインワークショップを開催した。各自に1日の過ごし方を描いてもらい、理想の放課後について話した。

教職員
WS

設計ワークショップ

設計者を交えて施設の使い方を考えるワークショップを開催した。図面や模型をつかって意見交換し、今後の活動についてイメージをふくらませた。地域の大人、保護者、中学生、教職員、行政職員など70名以上が参加してくれた。

2026年度開設に向けて、町民活動を始めながら準備！

「わくわくルーム」のリニューアル

神奈川県横浜市立日枝小学校 | 「わくわくルーム」を子どもたちとのワークショップを通して、不登校傾向のある子どもたちの学びや成長をサポートするための空間リフォームを行った。

「わくわくルーム」は、教室に入りづらい子どもたちが、パワーをためて教室に行く準備をする部屋。その部屋全体を、子どもたちが主体的になって、話し合いを行い、ゾーニングやレイアウトを考え、予算管理をしながら家具を選定し、自分たちに適した空間を創造した。

<活動実績／全体スケジュール>

1 か月目：

児童が、担任と学校事務職員から説明を受ける

2 か月目：

子ども会議キックオフ

- ・ファシリテーターの進行のもと、黒板やホワイトボードを用いて、話し合いを進めた。
- ・大切にしたいことは「暗い-静か-わくわく」で一致し、「リラック間」をつくることになった。
- ・テントを張った空間を作った。
- ・みんなでカタログをたくさん見比べて、カームダウンハウスを注文した。

3 か月目：

注文したものを設置

- ・カームダウンハウスが到着し、空間配置について試行錯誤した。

アドバイザーにオンライン相談

- ・専門家の話を聞いてみよう

レイアウト再構築と物品選定加速化

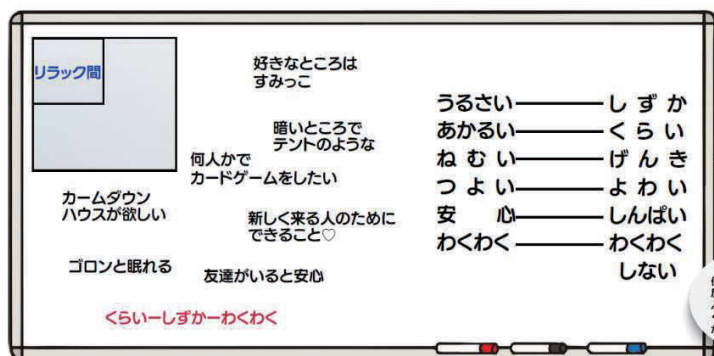
- ・メ切を意識しながら見通しをもって構想し、物品選定を進めた。
- ・吸音パーテーションで囲まれた学習スペース、プレースペースを設定した。

4 か月目：

改造計画報告動画の撮影と振り返り

- ・記録動画を作成した

他の教室へ波及



ホワイトボードにみんなの意見を書き、大切にしたいことは「暗い-静か-わくわく」で一致した



まずはテントを張った空間で暗い空間をつくった

CO-SHA Platform (コーシャプラットフォーム) 第3回ミートアップイベント

<https://youtu.be/zQXHEtAD9Fw?t=3698&feature=shared>

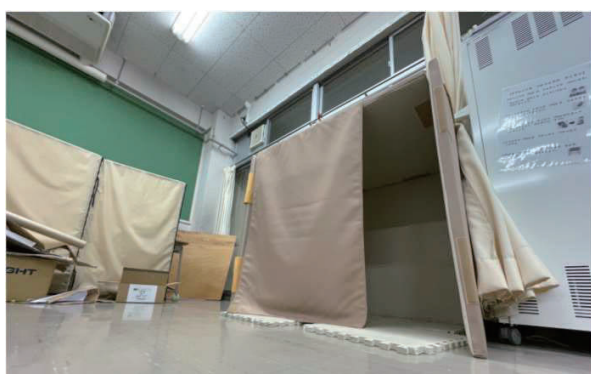

実現プロセス：

みんなが居心地の良い空間をつくろう

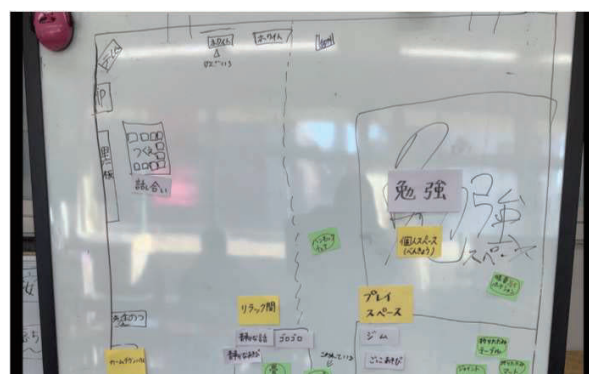
- ・日枝小学校では、教職員自ら職員室をリニューアルした経験を踏まえて、子どもたちが過ごす空間についてもリニューアルの余地がないか、事務職員が中心となって検討した。
- ・「わくわくルーム」は教職員が工夫を凝らして子どもたちのための空間を試行錯誤してきたが、より子どもたちが満足する空間となるよう、そして子どもたちが自己の状況に応じて学び方を選び、学び方を学ぶような仕組みが必要であった。
- ・そこで、子どもたちに主体的に空間を創り出す経験をしてもらおうと、みんなが居心地の良い空間を目指して「わくわくルーム」のリニューアルに取り組んだ。

子どもたちによる試行錯誤

- ・子どもたち・教職員を中心として、大学教員やファシリテーター等が伴走しながら考えを深めた。
- ・子どもたちを中心に、このプロジェクトを通じて安心安全な空間づくりについて話し合い、「わくわくルーム」の中で、どのような空間やゾーニングをすべきかを決めていった。
- ・子どもたちが主体的に予算管理を行い、カタログを比較しながらカームダウンハウスや吸音パーテーションなどの物品購入について検討し、関係者に了解を取りながら、子どもたち同士を尊重しながら試行錯誤することができた。
- ・完成後も、子どもたちがレイアウトを変更したい時に変更している。



みんなでカタログを見比べて選んだカームダウンハウスをレイアウト



ゾーニングを意識しながらレイアウトの再構築と物品選定に取り組む様子（3か月目）

他の教室への波及

- ・このプロジェクトを見ていた隣の教室からも、「わくわくルームみたいなリラックスできる空間が私たちの教室にも欲しい」との声があがり、総合的な学習の時間に、活動の会議を開いていった。協働的な学習の場所としてスペースができあがり、子どもたちが使い始めている。

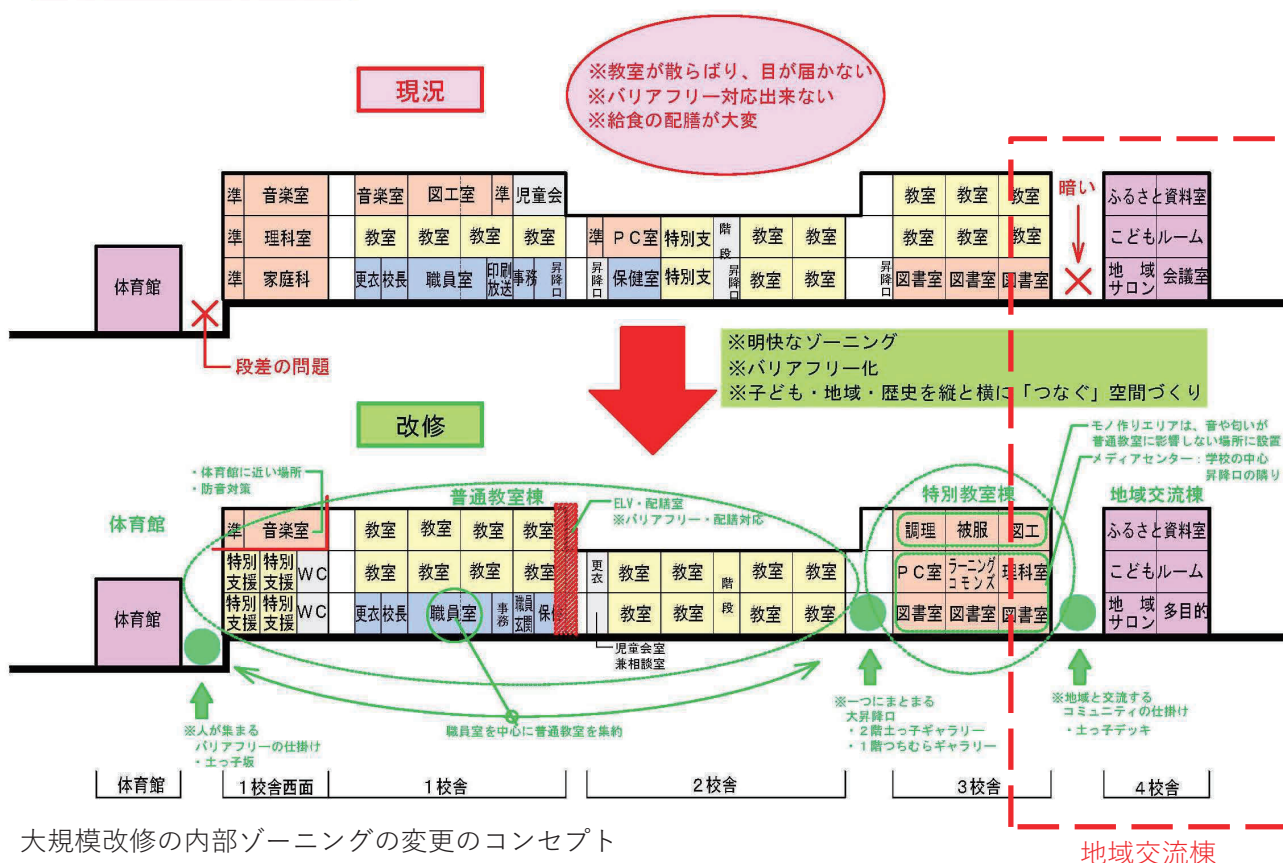


他の教室に波及した協働的な学びのスペース

大規模改修時に地域開放エリアを再編

千葉県柏市立土小学校 | 既存校舎の長寿命化改修に当たり、施設の目指すべき姿の一つとして「地域とともにある学校づくり」を設定。地域の方々が利用する諸室を集約した地域開放エリア「地域交流棟」を整備（改修）した。

内部ゾーニングについて ※子ども・地域・歴史を縦と横に「つなぐ」空間づくり



大規模改修の内部ゾーニングの変更のコンセプト



多目的室で開催されたおかねの仕組み教室（スクール形式）



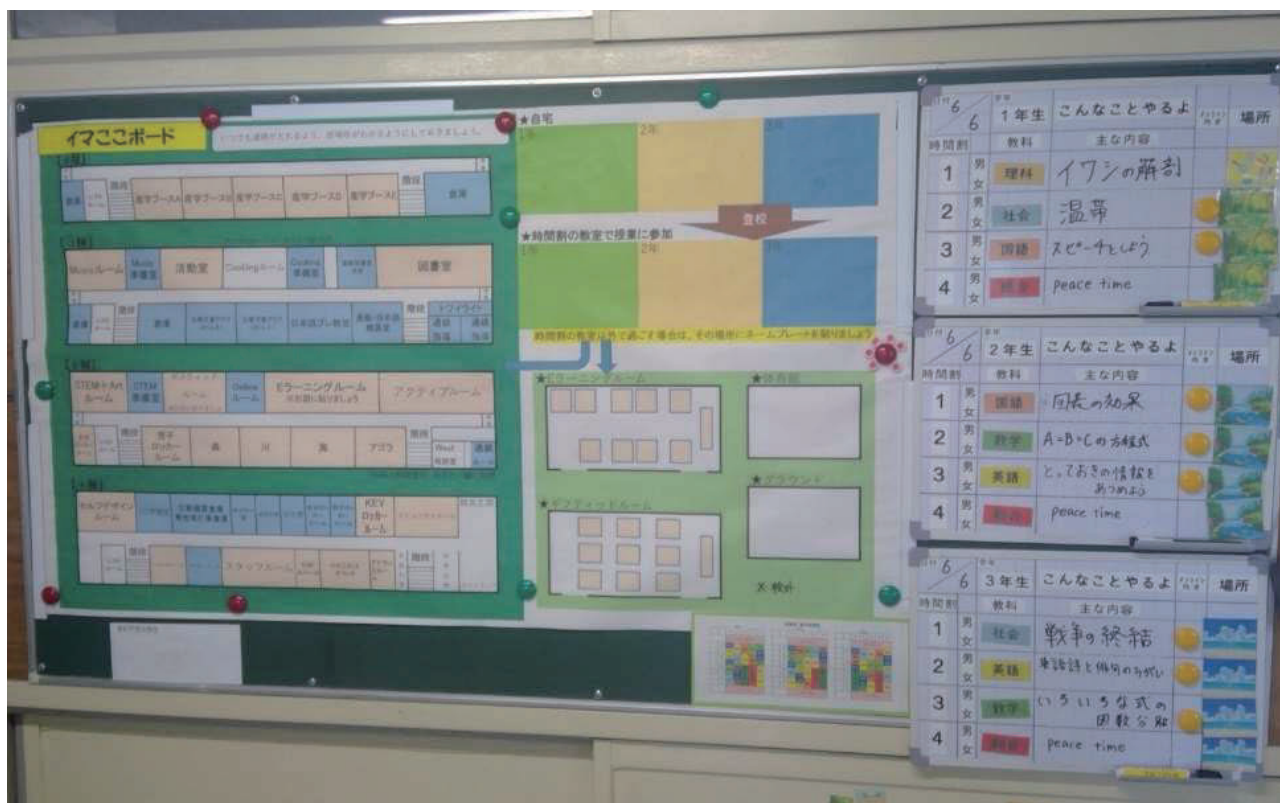
多目的室で開催されたマッサージ教室（グループごとの形式）

⇒「学校施設の教育環境向上を図る改修等に関する課題解決事例集」（令和5年5月、既存学校施設改修等の技術的課題検討会）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/seibi/1372577_00003.htm



生徒が自分で居場所を知らせる「イマここボード」

岐阜県岐阜市立草潤中学校 | 生徒がその日の時間割に応じて選択した居場所を掲示板に表示しておくことで、校内に用意した多様な居場所を安心して活用する。



「イマここボード」にマグネットのネームプレート張り付け、生徒が自分の居場所を記す

その日の授業ごとに校内外の選択肢から生徒が授業を受ける場所を決め、廊下に設けられた「イマここボード」に自分のネームプレートを張り、教職員や他の生徒に居場所を知らせている。

実現プロセス：

学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）として開校

- ・ 草潤中学校は、築40年の元小学校校舎（RC造4階建て）を改修して、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）として、2021年度（令和3年度）に開校した。全校生徒は40名（2023年度（令和5年度））。
- ・ 校内には、既存の学校用の机や椅子等の代わりにオフィス用の家具を多く取り入れた普通教室の他、一人学習用のブース、他の生徒と一緒にソファでくつろげる空間、リラックスしやすい配慮がされた図書室等、授業中にも利用可能な居場所の選択肢を用意している。

- ・各教室で行われる授業にはオンラインで参加することが可能で、自宅での学習を中心にした
り、登校を中心としたりするなど、登校のスタイルは生徒自身で選択している。一方で、誰
がどこにいるのか把握が難しくなり、安全面で問題が出てきてしまうことも予想されるため、
「イマここボード」を導入した。

多様な居場所の選択肢

- ・生徒は、「イマここボード」にマグネットのネームプレート張り付け、自分の居場所を記
しておく。登校したら、「自宅」にある自分のネームプレートを「時間割の教室で授業に参
加」もしくは、校内の教室以外の場所へ移動させる。



普通教室

2種類の生徒机や、パーティションにもなる可動式のミニホワイトボードなどを配置。典型的な学校の普通教室から受ける印象に近づけないために、オフィスのデザイン等も参考にしながら家具を選定した。



Eラーニングルーム

ブースで区画されている一人用のスペースがある。



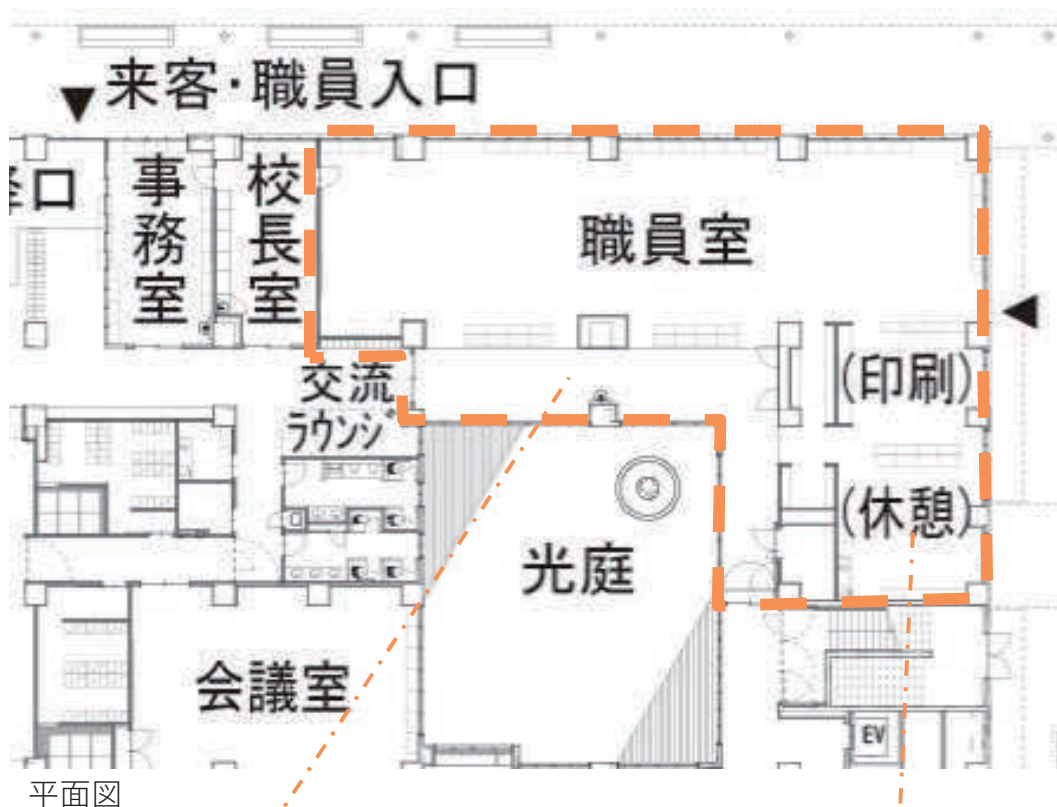
図書室

リラックスして本を読めるクッションやハンモック、他人の目を気にしなくてもよいテントやハイバックのソファもある空間。

☞生活-01-02_一人にもなれる場所
図書室のテント

職員室内とゆるやかにつながる談話スペース

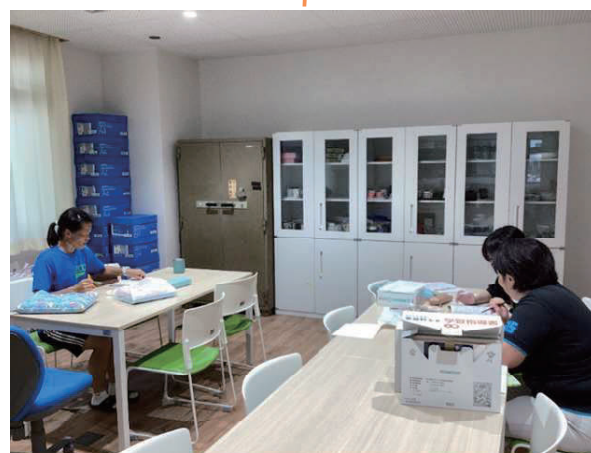
千葉県柏市立田中北小学校 | 職員室はL字の形をしており、執務エリア、打ち合わせエリア、印刷機等の作業エリア、休憩エリアが仕切られることなくゆるやかにつながっている。休憩エリアは職員のコミュニケーションの場にも、集中作業スペースにもなる。



平面図

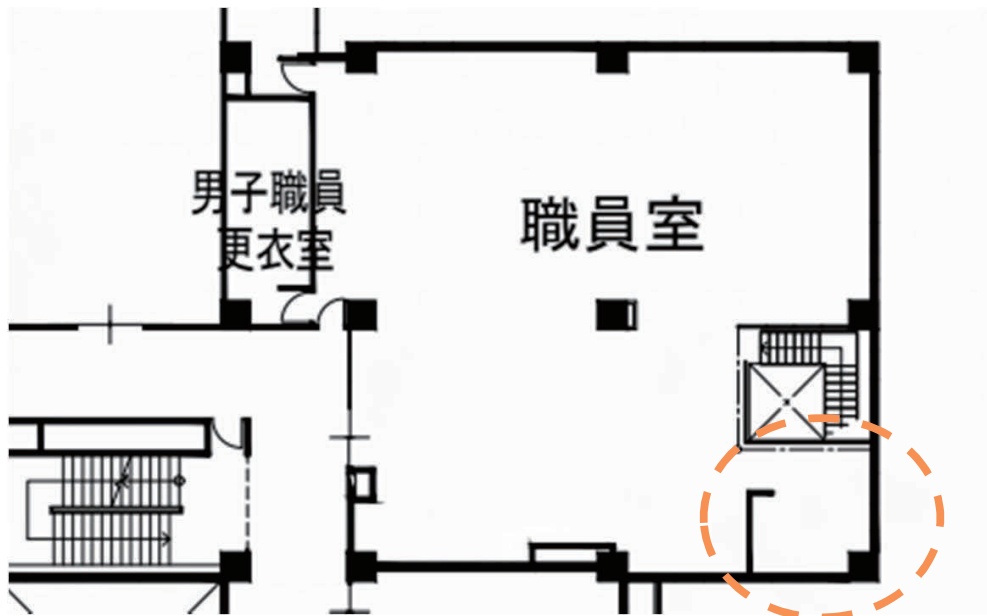


光庭横の打ち合わせエリア



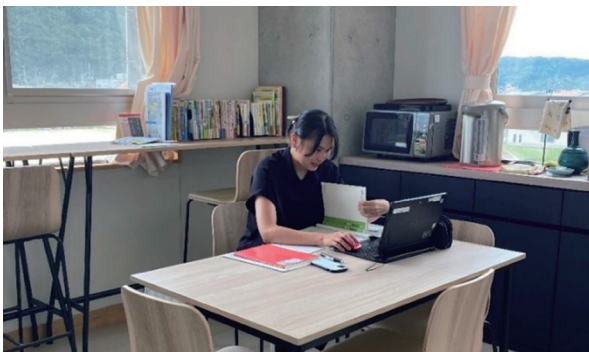
食事をとったり作業をしたりすることを想定し、ソファではなく机と椅子を選択した

広島県福山市立想青学園 | 職員室の一角のエリアは、職員のコミュニケーションの場にも、集中して業務を行う場所にもなる。



平面図

生
活



集中作業の場にもなる



流し・冷蔵庫・電子レンジ等もある

- ・ 職員室の一角のエリアは、コンパクトでありながら、二面がグラウンドに面した窓、一面が階段室の吹き抜けに面しており、三面から光を取り込む明るい空間。
- ・ 流し・冷蔵庫・電子レンジ等と、カウンターと机と椅子があり、教職員のコミュニケーションの場にも、集中業務スペースにもなる。
- ・ 学年会を行ったり、休憩時間に談笑したり、一緒に食事をとったりと、業務以外の面でも風通しのよい職場づくりにつながっている。

生活-05-01_目的に応じて場所を選べる職員室

一人で集中作業をする場所や、立ったまま打ち合わせできる場所

学年担任制を助ける普通教室間の扉を設置

千葉県柏市立土小学校 | 大規模改修（長寿命化改修）時に、隣り合った二つの普通教室の間の壁部分に扉を設けた。一学年二学級を二名の担任がペアになって担当しており、扉を開けて二つのクラスの行き来がしやすい。

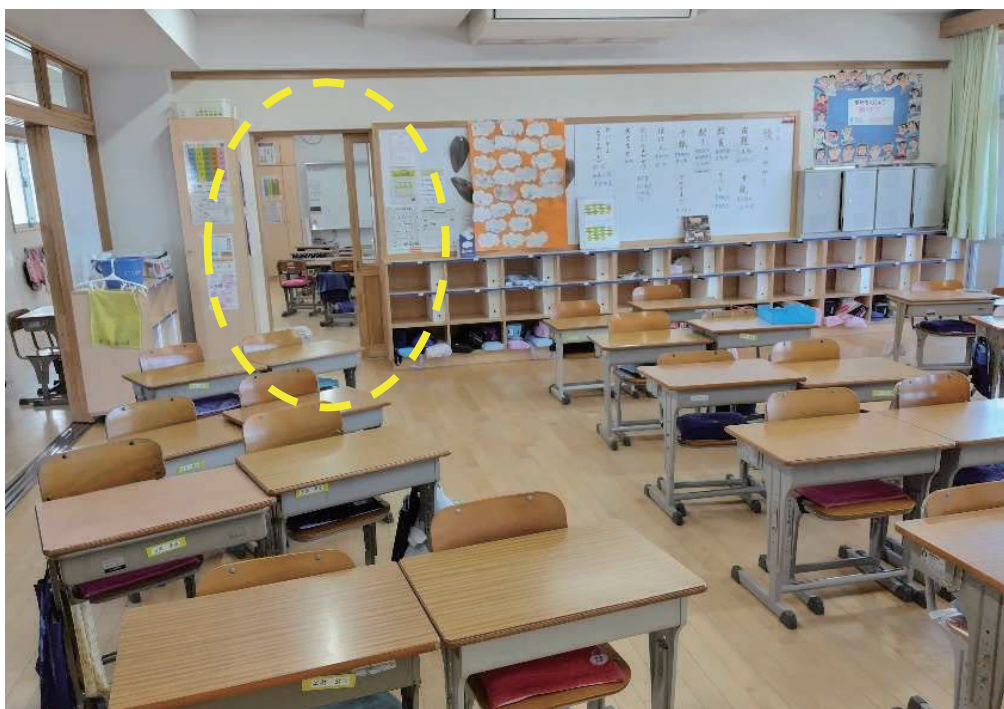


隣り合った2つの普通教室の間の扉を担当が行き来する様子

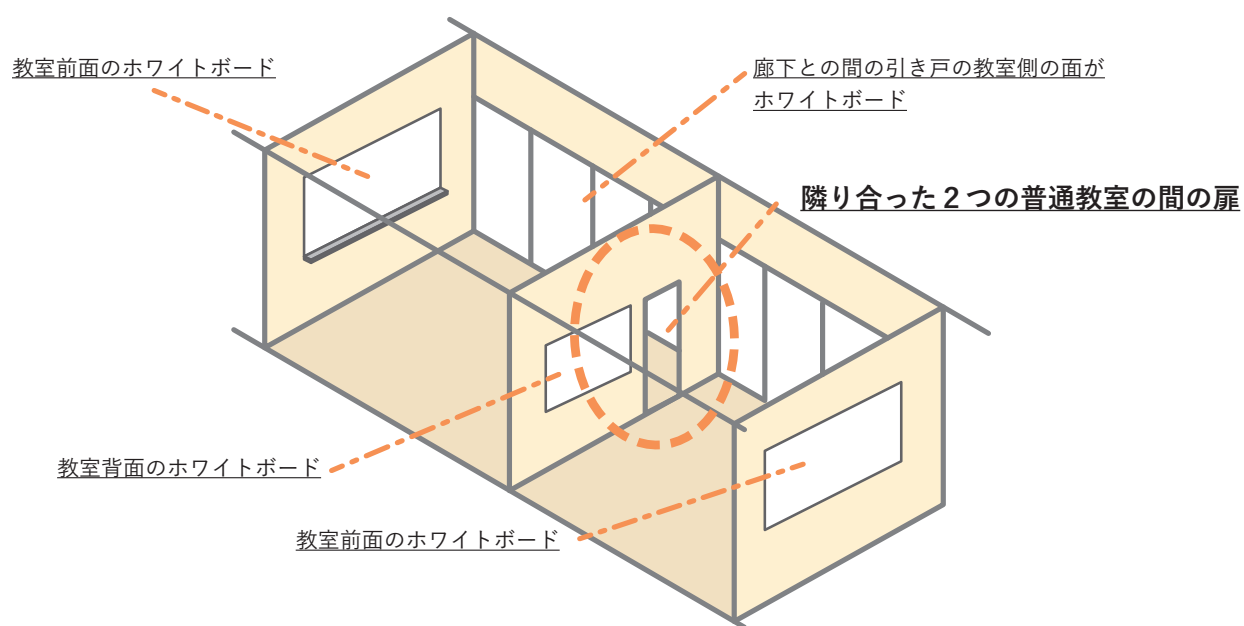
実現プロセス：

学年担任制に適した改修

- ・土小学校では、学年担任制（二名の教員が、一学年二学級の担任を共同して務める）を採用している。
- ・大規模改修時に、学年担任制の運用を円滑にするために、二つの教室の間に扉を設置した。
- ・扉があることで、担任が両方の教室を行き来することができ、同学年の学級の様子を相互に窺いやすくなることから、学年担任二名の連携がとりやすくなる。

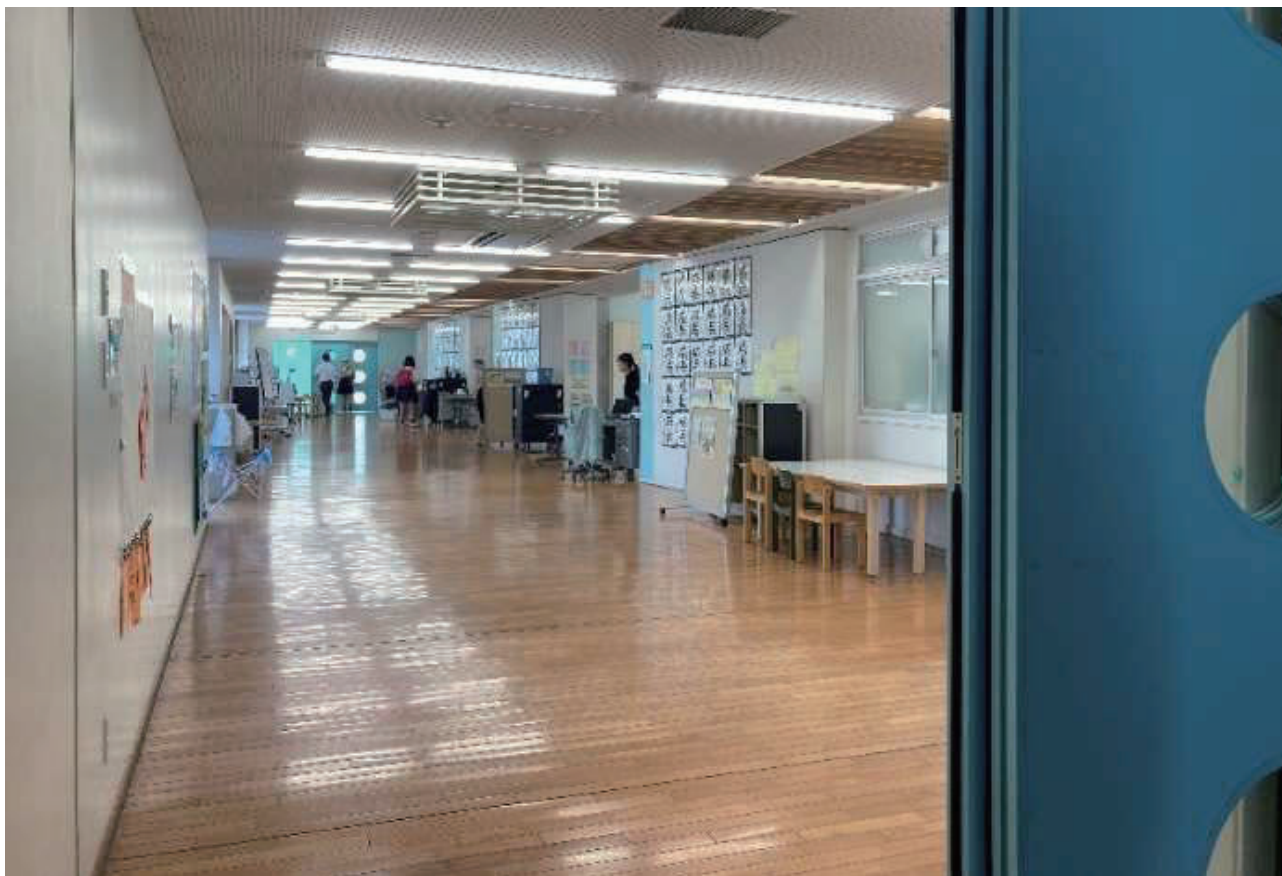


扉を開けた様子



普通教室とつながるオープンスペース

広島県府中市立府中学園 | 教室の前のオープンスペースには、教員コーナー、グループ学習や個別対応の際に役に立つスペースもある。



中・高学年用のユニットのオープンスペース



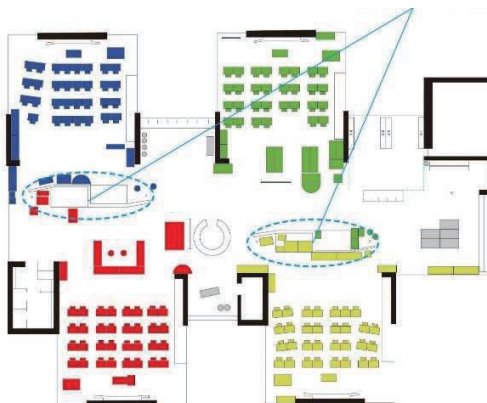
集会の場にもなる

生活-05-01_目的に応じて場所を選べる職員室 教室近くでも教員同士の打ち合わせが可能

千葉県千葉市立美浜打瀬小学校 | 教室とワークスペースの空間を一体的につなげたり、その間をランドセルロッカーで分節する。



家具で教室とワークスペースの間を仕切っている様子



教室を対面配置している場合、家具や遮音壁で仕切っている

∞共創-02-02_教職員との対話 教職員と研究者の対話を通じたワークスペースの改造

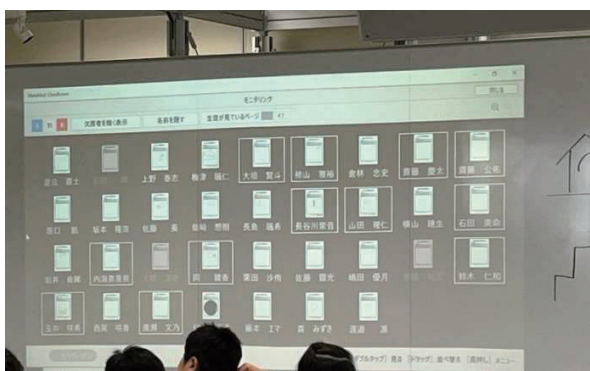
壁一面に複数の画面を映す、書く

東京学芸大学附属竹早小学校 | 教室前面の大画面を活用して、教材や児童の課題への取組状況を投影することが可能。

小学校の一室をリニューアルして、壁一面を埋め尽くす巨大スクリーン（ホワイトボードを兼ねる）・大型プロジェクター2台・マイク・スピーカーを配置した部屋。左右2台のプロジェクターは、それぞれに別の内容を投影することも、2台使用して全体で大きな映像を映し出すこともできる。



クイズ形式の発問を大画面で共有



全児童の作業した内容がリアルタイムで投影され、他者の作品を自身の参考にすることができる



自身の作品を大画面投影して発表する様子



家具をアレンジすることで、様々な集団や個別の学習を可能にする

実現プロセス：

設備をフル活用した授業

- ・この写真の授業では、前半は、児童は1人1台端末を使って、教員の出題した問について、隣の席の児童と協力しながら回答している。後半は、左側の画面だけ投影して、右側はホワイトボードのまま、教員が板書をしながら授業を展開していた。児童全員の作業状況を映し出すことで、作業しながら他の児童の作品をのぞきに来るような動きが生まれることを意図していた。

大画面を生かして授業の魅力を高める

(教員の実感)

- ・主体的な学びの深まり、求心力が高まる。
- ・ダイナミックな教材提示から子どもの関心、意欲が高まる。
- ・大型スクリーンに投影された友達の考え、教材などを皆で共に見合う（共視）意欲が高まる。
- ・フレキシブルに学習空間をつくりかえることができる。
- ・高音質、高画質の映像を提供することができる。
- ・複数の画面を提示することで比較を通した協働的な学びにつなげていくことができる。
- ・ICTに特化した教室が一室あることで、ICTを活用した授業実践を行う教員が増加した。

ポイント：マルチな画面、教室構成

この事例では、壁一面のホワイトボードをマルチスクリーンとして活用できることがあげられる。8つまで別の画面を写すことも可能であり、画面を写しながら板書すること、映像の上に板書することも可能である。直感的に操作できるスイッチャーとソフトが入っているため、画面の切り替えもスムーズに行える。また、机や椅子が可動、スタッキングできるものであるため教室空間もマルチに変更することができる。

郷土種の植栽が周囲に溶け込む

岩手県釜石市立唐丹小学校・唐丹中学校 | 斜面に建つ校舎が周囲の山林になじむような風景づくりを目指した植栽計画。

東日本大震災の津波から免れた旧中学校の敷地内に、小学校・中学校・児童館を集約した。建築可能範囲は裏山の急傾斜地（最大高低差34m）に限られていた。斜面に建つ校舎が周囲の山林になじむよう、植生回復に向けた植栽を行った。



周囲の山林になじむ校舎



将来的な斜面林の形成を促すため、高木の苗木を植えた

実現プロセス：

子どもたちは山を使いこなしながら学ぶ

- ・東日本大震災で被災した学校を集落の中で復興させたいという地域の想いもあり、地域の風土や集落と一体となり、美しい風景を引き継ぐような復興の在り方を検討した。
- ・建設に当たっては大規模な造成工事を伴ったが、斜面を障害とするのではなく、山全体を使いこなしてのびのびと学びや遊びが展開するような学校の姿を追い求めた。その結果、分棟とした2階建ての校舎を配置し、その外部環境としての植栽を工夫した。



分棟の校舎をつなぐ道



教室の窓からも植栽が見える



在来種の野草が草土手に咲いている
風景をイメージ

季節感をもたらす地域植栽の復元

- ・校舎外周の法面は周囲の山林に溶け込むような斜面林とすることを目標とし、できる限り切土量が抑えられるよう、土木と建築をすり合わせながら設計を行った。
- ・校舎や運動場の周りは、学校生活が季節の移ろいとともに記憶に残るような風景づくりを目指した。旧街道沿いの集落で、その名残ある町並みの中に庭の老木や桜の大木が垣間見える。そうした地域景観と調和し、なおかつ季節感をもたらすような樹種、配植を意図した。
- ・植生回復に向けた植栽については、地元の樹木生産者へのヒアリングや周辺環境調査の結果に基づき樹種を選定し、工事期間中に種子の採取・育苗を行った。

中学校の理科の授業における植栽の活用

- ・植物の観察の授業において、植栽を活用している（ユリの花の茎：維管束の観察、松ぼっくり：裸子植物の観察、タンポポ：根のつくりの観察）。

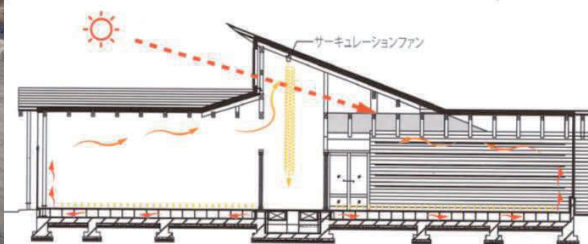
宮城県東松島市立宮野森小学校 | 教室は森に臨む北側配置とし、目の前の樹木が反射する光が教室を明るく照らしている。また、ハイサイドライトからは太陽光が差し込み、冬も暖かい空間となっている。



北側の森に面した教室



全体配置図



ハイサイドライト

生活-04-01_自然の力も取り入れた明るい空間 自然光で明るい学校にする

資料

事例調査報告

富山市教育委員会

(一部抜粋)

事例調査報告

令和5年3月
富山市教育委員会

事例2 〈先進事例〉京都府福知山市 小中学校再編計画

概要

- 福知山市では「教育のまち福知山」を掲げ、関係諸団体と連携した「社会総がかりでの教育」を打ち出している。
- 人口減少・少子化の進む中、小規模・過小規模校の再編を積極的に進めてきた。
- 学校の統合前に、対象小学校同士での交流行事や合同授業などを計画的に行ってきた。
- 再編対象の条件*を計画に明記している。
- 廃校後の学校の跡地活用も積極的に行っている。

基本情報

市町村名	京都府福知山（ふくちやま）市
人口	77,306人（令和2年国勢調査より）
学校数	小学校：14、中学校：9（令和4年）
特徴	京都府西北部、中丹地方に位置する市。古くは城下町として栄えた、内陸の商工都市である。2005年に大江町、三和町、夜久野町を編入合併。

ポイント

- 複式学級の解消と「シームレス学園構想」の二本柱による再編の推進
- 地域連携による教育内容の充実
- 合同授業・行事の実施

（*）小学校における再編対象

- ・ 複式学級のある学校を対象として、その解消により各学年に単学級を確保
- ・ 学級には一定の規模（20人程度）を確保し、学級内での学び合いを高める
- ・ 市内小学校を2011年の26校から14校（複式学級の解消）～16校（京都府の平均児童数）を目途に再編

（資料【2-1】より引用）

福知山市の学校再編方針

- 福知山市は、「複式学級」の解消、中学校区単位での小学校統廃合、中学校生徒数の標準化を目的に、統廃合を軸とした学校再編を行い、2021年に当初予定の再編は完了している。
- 学校再編と同時に、旧大江・三和・夜久野町域の学校はそれぞれ大江学園・三和学園・夜久野学園として小中一貫校・義務教育学校に再編されている。これは、福知山市の掲げる**幼保小中一貫・連携教育「シームレス学園構想」**に基づくものである。
- 市の方針に基づき、統合の決定した小学校同士での**合同授業・行事、校舎見学会**などが実施され、統合後の学校運営・児童の心情面への影響が最小限となるよう工夫している。
- 後期計画にて統合された小学校では、前もって「**統合準備委員会**」（名前はケースごとに異なる）が設立され、学校名やスクールバスの運行、PTAの運営方針などが複数回協議されている。また、その内容は「**統合協議会だより**」等としてHP上に公開されている。



上・中・下六人部小学校 統合協議会ニュース

第2号

発行 上・中・下六人部小学校統合協議会
事務局 福知山市教育委員会事務局 教育総務課
福知山市字内記13番地の1 電話 0773-24-7061

平成29年12月 発行

3小学校の児童が 交流を深めています

上六人部小学校と中六人部小学校の児童が、下六人部小学校の雰囲気を感じ、互いに交流するための合同学習をこれまでに3回実施しました。

10月24日の合同学習では、午前中は教科学習をして、午後からは全員で人形劇を鑑賞しました。保護者・地域の方にも参観していただきました。

授業や休み時間、昼食の時間を共に過ごすことで、より仲が深まり、来年度の統合に向けて取組が進んでいます。



10月25日の交流の様子

合同学習の様子

（資料【2-6】より引用）

事例3 〈先進事例〉大阪府豊能郡能勢町 小中学校再編計画

地域連携 通学参考

1/2

概要

- 能勢町では、2016年に町内全ての小学校、中学校を、新設の施設一体型小中一貫校「能勢ささゆり学園」に統合した。その上で、統合を契機とした魅力的な学校づくりに関する先進的な取り組みを行っている。
- 地域住民との協力による「ふるさと学習」や「アフタースクール」の充実が図られている。
- スクールバス通学による体力低下を防ぐため、体力向上の取り組みも実施されている。

基本情報

市町村名	大阪府豊能郡能勢（のせ）町
人口	9,079人（令和2年国勢調査より）
学校数	義務教育学校：1（令和4年）
特徴	大阪府北部の中山間地域に位置する町。元々6つの小学校と2つの中学校があったが、2016年に施設一体型小中一貫教育校の「能勢ささゆり学園」に統合、2022年から義務教育学校へと移行している。

ポイント

- 地域連携による教育の充実
- スクールバス通学の課題の改善

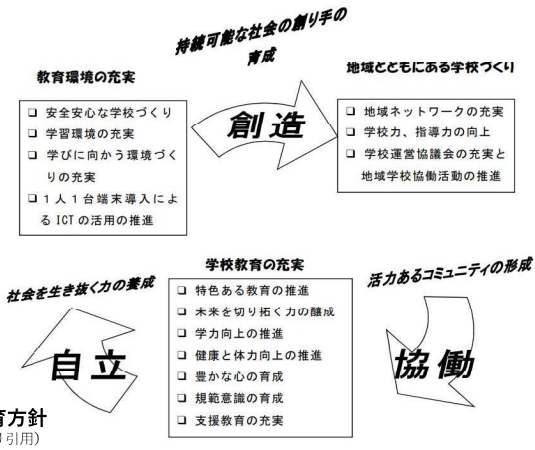
能勢町の地域連携教育

- ふるさと学習
地域の方々の協力を得て、能勢の歴史、昆虫（ゼフィルス）の生態と保護、能勢の浄瑠璃などについての授業を実施
 - コミュニティ・スクールとの連携
平成30年度からコミュニティ・スクールと連携し、地域の方を招いた学校行事支援・学習支援・挨拶運動などの教育環境の整備を行った。
 - アフタースクールの取組
小学生には、地域のボランティアの方が、算数・数学・漢字検定を目標に自主学習やテストを実施、ICT機器も活用し学年ごとのドリル学習も行う。中学生もICT機器を活用、地域の学習塾との協働で自立学習塾なども実施し、学習支援員を配置。
- これらの取り組みにより、「授業が楽しい」と回答する小学生が85%に上ったほか、中学生の「自己肯定感」の向上にもつながっている。

参考：資料【3-5】



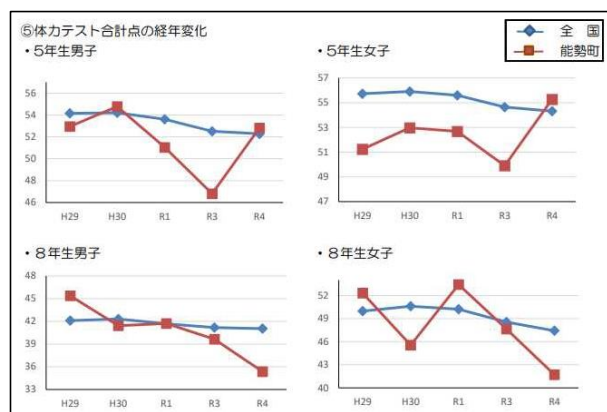
能勢ささゆり学園
（資料【3-6】地域学校協働本部「コミュニティスクールだより8月号」より引用）



事例3 〈先進事例〉大阪府豊能郡能勢町 小中学校再編計画

地域連携

通学参考



能勢町の児童生徒の体力テスト合計点の経年変化

(資料【3-2】より引用)

※施策の成果と課題を検証し、その改善を図る

参考資料

- 【3-1】能勢町HP「学校指導担当」
(<http://www.town.nose.osaka.jp/soshiki/gakkoukyouikusunomuka/shido/index.html>)
- 【3-2】能勢町教育委員会(2023)「『全国体力・運動能力・運動習慣等調査』能勢町の結果概要について」
(<http://www.town.nose.osaka.jp/material/files/group/32/R5taiiku.pdf>)
- 【3-3】能勢町教育委員会(2022)「令和4年度能勢町教育基本方針」
(<http://www.town.nose.osaka.jp/material/files/group/32/R4kyouikukihonhousinn.pdf>)
- 【3-4】文部科学省(2015)「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」
(https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2015/07/24/1354768_1.pdf)
- 【3-5】文部科学省(2020)「平成30年度『少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業』取組モデル」
(https://www.mext.go.jp/content/20200228-mxt_syoto02-000004938_1.pdf)
- 【3-6】能勢ささゆり学園HP (<https://nose.sasayuri.andteacher.jp/>)

スクールバス利用による児童生徒の体力低下

- 町教委は、スクールバスでの通学が、子どもの体を動かす機会を減少し、運動技能の低下につながっていることを指摘している。
 - ・スクールバスでの通学の影響もあり、日々の生活の中で体を動かす機会が減少している。1週間の総運動時間は、5年生・8年生ともに全国平均を下回っている。(資料【3-2】より引用)
- 文科省も「統合により生じる課題」として、スクールバス等の多様な交通手段の導入に伴う徒歩時間の減少からの体力低下を挙げている。その対策として以下のような取り組みを推奨している。(資料【3-4】より引用)
 - ・歩数の目標を定めて校門から一定の距離でスクールバス等を乗降車させたり、歩数計を活用したりして運動量の確保に努める。
 - ・遊具や運動場等の運動環境の改善を進めるとともに、体育の授業で体を動かす時間を意識的に増やしたり、学校教育全体を通して体力づくり活動の充実を図る。
 - ・スクールバス導入後の児童生徒の歩数を統合前と比較し、その減少幅を可視化、地域・保護者と連携し必要な対策をとる。

能勢町の体力向上への取り組み

- 子どもの体力向上に、町立保育所・私立幼稚園・能勢小学校・能勢中学校が協働した「能勢町体力向上ミーティング」を開催。参考：資料【3-5】
- 能勢町では、目指せ！「能勢っ子！かけっこ！日本一！」をテーマに、大阪経済大学とのコラボで「能勢町オノマトベ体操」を作成した。参考：資料【3-1】「お知らせ」



オノマトベ体操 (能勢町HPリンクYouTubeより引用) <https://youtube.com/watch?v=3wALUKOIZMU&feature=shares>

事例 7 〈小規模校の事例〉低学年のみが通う分校（八代市立金剛小学校弥次分校）

地域連携

1/3

概要

- 八代市立金剛小学校弥次分校は、大正11（1922）年に高植・弥次・敷川内の3小学校が統合した際、高植小を本校、弥次・敷川内を分校としたことに始まる、統合に伴い誕生した分校である。
- 本校との交流行事が数多くあるほか、地域の組織は本校・分校の区別なく、金剛小校区一体で地域と学校が連携している。
- 4年生から多くの児童が自転車で本校に通うという特性上、学校での自転車訓練など特徴的な通学支援が行われている。

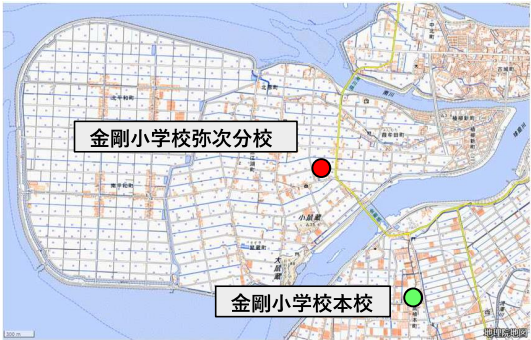


弥次分校
（資料【7-1】より引用）

基本情報

学 校 名	八代市立金剛小学校弥次（やつぎ）分校
所 在 地	熊本県八代市三江湖町1472-1
児童・学級数	62名・1～3年生5クラス（特別学級2）
教 職 員 数	8名（2021年5月時点）
開 校 分校として	大正11（1922）年4月、高植・敷川内・弥次の3小学校合併により高植小学校弥次分校に

学 校 名	八代市立金剛小学校（本校）
所 在 地	熊本県八代市高植本町1207
児童・学級数	197名・11クラス
教 職 員 数	16名（2021年5月時点）
開 校	明治8（1875）年、高植尋常高等小学校として開校、昭和29（1954）年に金剛小学校へ改称



弥次分校周辺の地図
（地理院地図を利用）

ポイント

- 3小学校が統合し、そのうち2校が低学年のみ通う分校となった事例
- 本校とのつながり、分校ならではの通学支援

弥次分校の特徴

- 金剛小学校弥次分校は、熊本県八代市の球磨川河口の低地に位置する分校であり、本校通学区域とは球磨川で隔てられている（4-6年生は橋を渡って本校へ通学する）
- 戦前、旧金剛村内の3小学校が統合された際、2校が1～3年生の通う分校となった。以降変わることなく、弥次分校は100年以上そのまま金剛小の分校として存続している。
- 本校 金剛小の校長先生が兼任し教職員同士の交流や情報共有が密に行われている。本校との合同行事も多く、金剛小の校区域全体を一体とらえた学校運営が行われている。
- 同じく金剛小の分校であった敷川内分校は、児童数減少により2017年に廃校となり、本校と統合している。

事例7 〈小規模校の事例〉低学年のみが通う分校（八代市立金剛小学校弥次分校）

本校との合同行事

- 弥次分校には3年生までしか在籍していない。そのため、高学年の上級生との交流行事が本校と合同で行われている。

〈本校と合同で行われる行事（一例）〉

- ・ お見知り遠足：本校に登校し、本校の上級生と行く遠足
- ・ 縦割り班活動：弥次出身の上級生が来て、旗づくりなどを行う
- ・ 運動会：本校で行われ、弥次分校の児童がダンスを披露する
- ・ 2年生漁港見学：本校の児童と一緒に漁港の見学に行く
- 合同行事により児童間での交流が生まれ、4年生以上になって本校に通う際のハードルを下げることに繋がっている。また、小規模校の課題として挙げられる「児童間の交流の少なさ」についても、地域一体での活動や合同行事によって解消している。
- 本校での高学年の委員会やクラブ活動は分校職員も担当している。
- PTAやコミュニティ・スクール、まちづくり協議会などの学校とのかかわる地域の組織は、本校・分校の区別なく実施している。



本校の上級生と合同で行う縦割り班活動の様子

（資料【7-2】より引用）

学校の沿革

- 明治8年1月15日 高植尋常高等小学校創立
- 明治22年4月1日 高植村・弥次村・敷川内村の3村が合併、金剛村成立
- 明治40年3月 小学校令改正、義務教育年限が4年から6年に延長
- 大正11年4月1日 高植・敷川内・弥次の3小学校が合併
本校・敷川内分教場・弥次分教場と呼ぶ
- 昭和18年2月11日 新校舎落成により、現在地へ移転
- 昭和29年4月1日 八代市に合併、八代市立金剛小学校と改称
- 昭和40年3月18日 校歌、校旗制定式
- 昭和45年12月 敷川内分校改築
- 昭和50年2月16日 本校校舎改築、創立100周年記念式典
- 平成16年3月26日 弥次分校校舎改築
- 平成16年11月17日 県教委指定「学校給食研究推進校研究発表会」
- 平成21年5月26日 NHKようこそ先輩（課外授業）
- 平成21年6月20日 第31回交通安全子ども自転車八代地区大会団体優勝
- 平成21年11月 新型インフルエンザ流行
- 平成22年2月14日 PTA金剛フェスタで教育プロレスを公開
- 平成23年11月22日 文科省指定・本県教育委員会委嘱「子どもたちの自立支援授業」研究発表
- 平成29年3月 敷川内分校閉校

（資料【7-1】より引用） ※一部別途調査



金剛小学校 本校（資料【7-1】より引用）

事例7 〈小規模校の事例〉低学年のみが通う分校（八代市立金剛小学校弥次分校）

弥次分校ならではの地域ぐるみの通学支援

- 弥次分校から本校までは、球磨川にかかる長い橋を渡り徒歩20分程度かかる。そのため、自宅から本校まで3km以上の児童も多く、一定数の児童が4年生から自転車で通学する。（本校・分校とも通学3km以上の高学年児童は自転車通学が可能）
本校・分校の全児童が交通ルールを学ぶ交通教室に参加、また本校への通学を控えた3年時には、検定に向けた練習会に全員参加して自転車の乗り方を学ぶ。練習会はPTA主催で行われ、警察・市役所・安全協会等の支援もあり、児童は自転車検定3級を取得している。（今まで全員合格している）
- 自転車通学の安全上、各家庭で保険加入や年1回の自転車点検を行ってもらっている。点検については、地域自転車店の協力で一定期間の点検料割引等がある。
- 協力的な地域の方の見守り（毎朝の交通指導員）もあり、事故も今まで起きていない。

分校の特徴と課題

【主な特徴】

- 児童一人ひとりへのきめ細かな指導の実現
児童数が限られるため、より教師の目が届きやすい。
- 地域と学校の近さ
地域の方の手厚い支援によって、柔軟に地域と密着した学校行事や日々のふれあいが可能となっている。

【主な課題】

- 上級生との交流
高学年の児童が同じ学校にいないため、学年間の交流が少なくなりやすく、学びの広がりにつながりづらい。

弥次分校では、本校との交流を通じて課題を改善できている点が多く、地域一体での支援や、本校・分校教員の連携、合同行事・活動などの重要性が伺える。



（2021.7月 夏休みの分校の朝）



（2015.7月 6年生もお手伝い）

3年生の自転車練習会の様子

（資料【7-2】「夏休み」（2021年7月29日掲載）、「梅雨が明けました！」（2015年7月29日掲載）より引用）

参考資料

- 【7-1】 八代市立金剛小学校HP（<https://es.higo.ed.jp/kongo/>）
 【7-2】 八代市立金剛小学校HP「弥次便り」
 （<https://es.higo.ed.jp/kongo/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E7%94%9F%E6%B4%BB%E7%BC%88%E5%BC%A5%E6%AC%A1%E5%88%86%E6%A0%A1%E7%BC%89-1>）

事例 8 〈小規模校の事例〉複式学級解消を目的に小規模特認校を試した事例（福岡県久留米市）

概 要

- 久留米市では、複式学級の解消・回避を目的に、対象の小学校へ市内全域からの通学が可能となる小規模特認校制度を導入した。
- 制度導入の結果、複式学級を回避した小学校がある一方、解消できなかった学校もあった。後者はその後統合となっている。
- 市は、2013年からの制度導入でその効果の検証を図れたとして、制度の導入だけでは複式学級の根本的な回避・解消にはなり得ないと判断し、今後は統合によって学校の適正規模化を図っていく方針としている。

小規模特認校制度の導入事例

- 久留米市で小規模特認校制度が4校に導入され、うち3校は2014年度より2年間児童が募集された。その結果、大橋小では複式学級が解消されたが、下田小・浮島小では改善されなかった。（制度導入の結果は下表）
- 市は小規模化への対応に、当初統合を検討していたが、地域の意向を汲んで小規模特認校制度を導入してみることとした。ただ現実には課題が多く、結果的に下田小・浮島小の2校は、2021年4月に城島小学校と統合することとなった。（参考：視察時の聞き取りより）



（左から）
統合先の城島小と、
廃校となった下田小・浮島小
（資料【8-7】【8-5】【8-6】より引用）

市町村名	福岡県久留米（くるめ）市
人 口	303,316人（令和2年国勢調査より）
学 校 数	小学校44校・中学校17校（令和4年）
特 徴	福岡県南部に位置する中核市。筑後地方の中心都市である。酒造や製造業が盛んな工業都市。2005年に城島町、田主丸町など4町を編入。

ポイント

- 小規模特認校制度を、複式学級の解消を目的に導入・検証
- 結果を分析し、今後の小規模化対策は学校統合とする方針

特認校導入校	大橋小	下田小	浮島小
入学・転入学	12名	20名	10名
卒業／転出	9名／3名	12名／8名	6名／4名
募集結果	複式学級が解消、2016年度以降も複式学級は編制されていない	一定数の入学も複式学級の発生は回避できず、2016年度より複式学級が発生	複式学級の解消に至らず、2017年度には再び全学年で複式学級が発生

小規模特認校制度導入校と実績（視察時の聞き取りより）

久留米市の学校再編方針

- 久留米市は「小学校小規模化対応方針」の中で、(ア)複式学級が発生している学校、(イ)今後発生が見込まれる学校、(ウ)望ましい学校規模を下回る学校（全学年が複数学級）、と**優先順位**を定め、対応の**基本方策**を「**学校の統合**」としている。
- 市は2013年からの小規模特認校制度の導入結果を受け、その効果の検証は図れたとして、小規模化の対策方針を上記に修正し、今後は複式学級の回避・解消を目的として、制度を再度活用する予定はないとしている。（視察時の聞き取りより）

事例 8 〈小規模校の事例〉複式学級解消を目的に小規模特認校を試した事例（福岡県久留米市）

再編手順

2/3

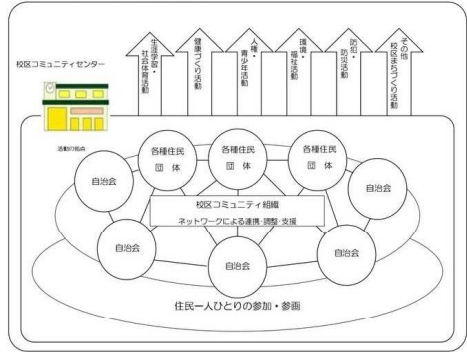
下田・浮島小の統廃合

- 2013年の小規模特認校制度の導入後、複式学級が解消されなかった下田・浮島小については2021年度より城島小に統合することとなった。（統合前児童数＝城島240名/下田38名/浮島22名）
- 市担当職員によると、対象全校区での説明会は最初の2回、以降は統合校各地域別に細かく丁寧に説明の機会を設けた。説明会の回数は非常に多くなるが、地域別に実施したことで初めて地域や保護者の本音が聞けたとのこと。市は地域に寄り添いながら話を進め、結果として、保護者はPTAにおいて、地域は町内会の総会において合意形成が図られた。
- 統合が決まってからは「小学校統合準備協議会」を立ち上げ、スクールバスや制服、統廃合後の地域のまちづくり等について前向きに協議された。
- 久留米市では「校区コミュニティ制度」として、小学校区を単位とした地域づくりが行われている。これらの組織は下田・浮島小が廃校後も、それぞれの地区で存続しているので、地域の活動を継続することが可能である。

※ これら協議会・説明会の資料は全て市HP上にて公開されている。

（参考：資料【8-2】【8-10】、視察時の聞き取りより）

校区コミュニティ組織図

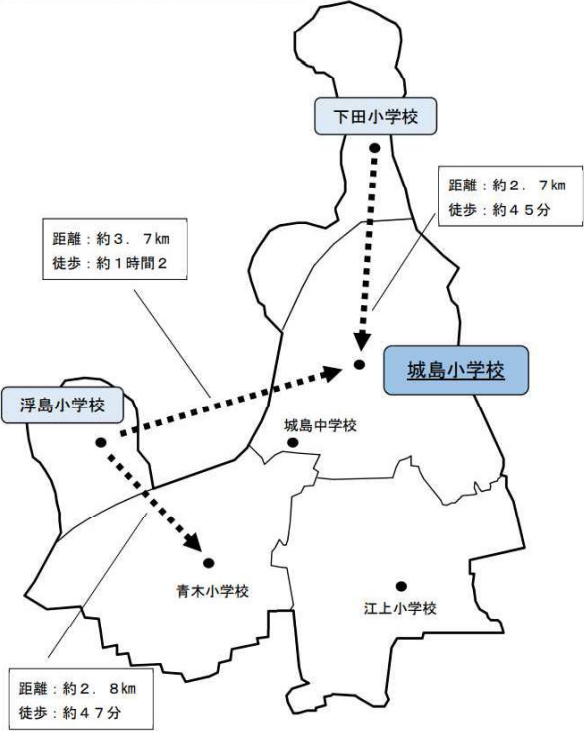


（資料【8-10】より引用）



（上から）
下田校区と浮島校区の
コミュニティセンター
（資料【8-11】「下田校区まち
づくり振興会」「浮島校区コ
ミュニティ振興会」より引用）

5 城島地域5小学校の校区図について



久留米市城島地区の校区図
（資料【8-3】より引用）

事例8 〈小規模校の事例〉複式学級解消を目的に小規模特認校を試した事例（福岡県久留米市）

小規模特認校制度とは

- 小規模特認校制度は、文科省の提言「学校選択制等就学校指定に係る制度の弾力化」に応じて、市町村教育委員会が弾力的に導入できる「学校選択制」の1つ「特認校制」のうち「小規模校」において取り入れられている制度
(資料【8-8】より引用)

【特認校制】従来の通学区域は残したままで、特定の学校について、通学区域に関係なく、当該市町村内のどこからでも就学を認めるもの

- 小規模特認校制の概要（富山市）：富山市在住の児童と保護者が、指定された小規模特認校（特色ある教育活動を実践）への入学を希望する場合、次のすべてに該当する児童であれば、通学区域外から入学できます。
 - ・児童及び保護者が、特認校の教育活動に賛同し、協力する
 - ・保護者の負担及び責任において通学する
 - ・原則として卒業時まで通学する
 (資料【8-9】より引用)

上記等から、小規模特認校制度は「自治体が認定」「自治体全域から希望する児童生徒の入学を認める」「少人数教育での特色のある教育を行う」「児童生徒の増加と学校の活性化を図る」などが特徴であり、地域の特性を生かした独自の科目設定なども可能としている。

参考資料

- 【8-1】久留米市教育委員会（2018-2022）「久留米市立小学校小規模化対応方針」
(<https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1060manabi/2020kyouiku/3150shoukibo/files/taidouhoushinn202204kaisei.pdf>)
- 【8-2】久留米市HP「下田小・浮島小・城島小統合準備協議会について」
(<https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1060manabi/2020kyouiku/3150shoukibo/2020-0617-1121-166.html>)
- 【8-3】久留米市教育委員会（2020）「第1次久留米市立小学校統合基本計画」
(<https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1060manabi/2020kyouiku/3150shoukibo/files/kihonnkeiaku20200617.pdf>)
- 【8-4】第2回 城島地域小学校統合に関する説明会 説明資料
(<https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1060manabi/2020kyouiku/3150shoukibo/files/20190802.pdf>)
- 【8-5】久留米市立下田小学校HP (<http://www.shimoda.kurume.ed.jp/>)
- 【8-6】久留米市立浮島小学校HP (<http://www.ukishima.kurume.ed.jp/>)
- 【8-7】久留米市立城島小学校HP (<http://www.joijima-pr.kurume.ed.jp/>)
- 【8-8】文部科学省HP「学校選択制等について」
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakko-sentaku/index.htm)
- 【8-9】富山市HP「小規模特認校制」
(<https://www.city.toyama.lg.jp/kosodate/shochugakko/1010439/1007404.html>)
- 【8-10】久留米市HP「校区コミュニティ組織」
(https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1050kurashi/2100chiikikatsudo/3010community/kouku_saihen.html)
- 【8-11】久留米市校区まちづくり連絡協議会 (<http://www.kurume-machi.info/>)

小規模特認校制度の適用にあたって

- 市内の全児童・就学予定児童の保護者へ小規模特認校の児童募集案内を配布、また市の広報誌に写真付きの特集記事を掲載するなど、募集にあたっては多方面へ積極的にPRを行った。
- 久留米市では、特認校制度を実施した際に、通学区域外から通学する児童向けの通学支援として、公共交通機関が止まった際に学校最寄り駅から市負担でタクシー送迎を行った。（悪天候時等の手配や費用など、学校側の負担が大きかった）
- 遠方からの児童の保護者はどうしてもPTAに参加しづらく、また地域や地域保護者も来てもらっていることで遠慮してしまうという事情がある。（上3項目：視察時間き取りより）
- 市は2019年に県内各市と全国の中核市を対象に、小学校統合前の小規模特認校制度実施について調査を実施。そこでは小学校統合実績のある43市のうち、制度を導入したのは4市（9.3%）にとどまっており、学校小規模化の解消に特認校制度を導入する自治体が多くないことを示唆しているといえる。参考：資料【8-4】
- その他、市は城島地区の統合も踏まえて特認校制度の運用実績について、以下のような検証をしている。（視察時間き取りより）

<制度の効果>

- ・ 一時的に特定の学年にのみ複式学級が見込まれる場合には、複式学級編制を回避できる。
- ・ 回避できた場合、実態に応じた指導等、より効果的な学級運営が可能。
- ・ 児童数の増加により、学習面や人間関係面で、学校の活性化に繋がる。

<制度の課題>

- ・ 複式学級の拡大・固定化が見込まれる場合には、複式学級編制の回避には至らない。
- ・ 通学支援では、非常時通学の安全課題と学校の負担が想定以上に大きい。
- ・ 学校・保護者・地域での学校づくり活動への参加に支障がある。
- ・ 児童募集を止めた後も、在校児童きょうだいは入学を許可しており、きょうだい児の在籍中に学校統合になり得ることを事前に伝えておかなければ行政が保護者を振り回す結果となってしまう。

資料

小・中学生アンケート
(様式)

子どもの学校環境に関するアンケート（小学生用）

問1 あなたの学年を教えてください。

1. ☐ 4年生 2. ☐ 5年生 3. ☐ 6年生

問2 あなたの学校を教えてください。

1. ☐ 伊根小学校 2. ☐ 本庄小学校

問3 あなたが小学校での学習や活動をするとき、大切にしていることを3つ選んでください。

1. ☐ 田植え、稲刈り、芋ほりなどの農業の学習は大切である。
2. ☐ 定置網体験・見学などの漁業の学習は大切である。
3. ☐ 伊根町の歴史や文化についての学習は大切である。
4. ☐ 伊根町の観光業や産業についての学習は大切である。
5. ☐ 地域・保護者の方々から学ぶ・交流することは大切である。
6. ☐ 小学生・中学生と一緒に活動する学習は大切である。
7. ☐ 伊根小学校／本庄小学校と交流することは大切である。
8. ☐ 保育園／保育所と交流することは大切である。
9. ☐ 伊根町以外の方々（観光に来た方も含む）へ、インタビューなどの聞き取り調査をする学習は大切である。
10. ☐ 伊根町以外の方々（観光に来た方も含む）へ、伊根町PRなどの発信活動は大切である。

●問4 から問6 の質問は自分の考えと近い項目を回答してください。

問4 あなたは徒歩で通学することは体力づくり面から大切なことだと思いますか。

1. ☐ そう思う 2. ☐ ややそう思う 3. ☐ あまりそう思わない
4. ☐ そう思わない 5. ☐ わからない

問5 あなたは毎日、他学年と同じ教室で学習しても気にはならない。

1. ☐ そう思う 2. ☐ ややそう思う 3. ☐ あまりそう思わない
4. ☐ そう思わない 5. ☐ わからない

問6 あなたは男子1人と女子数人、または女子1人と男子数人の学級で学習しても気にはならない。

1. ☐ そう思う 2. ☐ ややそう思う 3. ☐ あまりそう思わない
4. ☐ そう思わない 5. ☐ わからない

●問7 から問16 の質問は、あなたの思いを書いてください。特になければ書くなくてもいいです。

問7 小学校で学習や活動をしている内容で続けてほしいことはなんですか。

--

問 8 それはどうしてですか。

問 9 小学校で学^{がくしゅう}習^{かつどう}や活動^{ないよう}をしている内容^なで無く^なしてほしいこと^かや変えてほしいことはなんですか。

問 10 それはどうしてですか。

問 11 小学校で学^{がくしゅう}習^{かつどう}や活動^{ないよう}をしている内容^{あた}で新^{あた}しくいれてほしいことはなんですか。

問 12 それはどうしてですか。

問 13 小学校の建^{たてもの}物^せ・設^つ備^びで直^{なお}してほしいものはなんですか。

問 14 それはどうしてですか。

問 15 小学校の建^{たてもの}物^{あた}に新^{あた}しくいれてほしいものはなんですか。

問 16 それはどうしてですか。

アンケートへの協力ありがとうございました。

子どもの学校環境に関するアンケート（中学生用）

問1 あなたの学年を教えてください。

1. ☐ 1年生 2. ☐ 2年生 3. ☐ 3年生

問2 あなたの小学校区はどこですか。

1. ☐ 伊根小学校 2. ☐ 本庄小学校

問3 あなたが小学校での学習や活動を思い出してください。以下の中から大切にしていたことを3つ選んでください。

- 1. ☐ 田植え、稲刈り、芋ほりなどの農業の学習は大切である。
- 2. ☐ 定置網体験・見学などの漁業の学習は大切である。
- 3. ☐ 伊根町の歴史や文化についての学習は大切である。
- 4. ☐ 伊根町の観光業や産業についての学習は大切である。
- 5. ☐ 地域・保護者の方々から学ぶ・交流することは大切である。
- 6. ☐ 小学生・中学生と一緒に活動する学習は大切である。
- 7. ☐ 伊根小学校／本庄小学校と交流することは大切である。
- 8. ☐ 保育園／保育所と交流することは大切である。
- 9. ☐ 伊根町以外の方々（観光に来た方も含む）へ、インタビューなどの聞き取り調査をする学習は大切である。
- 10. ☐ 伊根町以外の方々（観光に来た方も含む）へ、伊根町PRなどの発信活動は大切である。

●問4から問6の質問は自分の考えと近い項目を回答してください。

問4 あなたは徒歩で通学することは体力づくり面から大切なことだと思いますか。

1. ☐ そう思う 2. ☐ ややそう思う 3. ☐ あまりそう思わない
4. ☐ そう思わない 5. ☐ わからない

問5 あなたは毎日、他学年と同じ教室で学習しても気にはならない。

1. ☐ そう思う 2. ☐ ややそう思う 3. ☐ あまりそう思わない
4. ☐ そう思わない 5. ☐ わからない

問6 あなたは男子1人と女子数人、または女子1人と男子数人の学級で学習しても気にはならない。

1. ☐ そう思う 2. ☐ ややそう思う 3. ☐ あまりそう思わない
4. ☐ そう思わない 5. ☐ わからない

●問7から問16の質問は、あなたの思いを書いてください。特になければ書かなくてもいいです。

問7 小学校で学習や活動をしていた内容で続けてほしいことはなんですか。

--

問 8 それはどうしてですか。

問 9 小学校で学習や活動をしていた内容で無くしてほしいことや変えてほしいことはなんですか。

問 10 それはどうしてですか。

問 11 小学校で学習や活動をしていた内容で新しくいれてほしいことはなんですか。

問 12 それはどうしてですか。

問 13 小学校の建物・設備で直してほしいものはなんですか。

問 14 それはどうしてですか。

問 15 小学校の建物に新しくいれてほしいものはなんですか。

問 16 それはどうしてですか。

アンケートへの協力ありがとうございました。